

## 第 13 回建物・構築物検討会 議事録

1. 日時 平成 20 年 2 月 21 日 (木) 15:00 ~ 17:20
2. 場所 日本電気協会 4 階 C 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
  - 出席委員 : 久保主査 (東京大学), 北山副主査 (首都大学東京), 貫井幹事 (東京電力), 藤田 (北海道電力), 遠藤 (東北電力), 星野 (中部電力), 伏見 (関西電力), 細川 (四国電力), 船本 (九州電力), 阿部 (日本原子力発電), 清水 (大林組), 小川 (清水建設), 中島 (東芝), 平子 (日立 GE ニュークリア・イジー), 吉賀 (三菱重工業) (計 15 名)
  - 代理出席 : 石田 (東京電力・竹内代理), 南 (北陸電力・藤井代理), 秋山 (中国電力・阿比留代理), 佐藤 (電源開発・野口代理), 松尾 (鹿島建設・福島代理), 西山 (大成建設・森山代理), 磯村 (竹中工務店・大宮代理) (計 7 名)
  - 欠席委員 : なし (計 0 名)
  - 常時参加者 : 土井 (新潟大学)
  - オブザーバ : 中山, 網嶋 (関西電力), 熊谷 (大林組), 川西 (竹中工務店), 花田 (日本原子力技術協会)
  - 事務局 : 糸田川 (日本電気協会)
4. 配布資料
  - 資料 No.13-1 第 12 回建物・構築物検討会議事録 (案)
  - 資料 No.13-2 「JEAG4601 原子力発電所耐震設計技術指針」改定案に関する書面投票の結果について (報告) (日電協 19 技基第 971 号 H20.2.19 付)
  - 資料 No.13-3-1 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程(案) (JEAC4618-200X) コメント及びその対応 (案)
  - 資料 No.13-3-2 別紙 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程(案) 変更案
  - 資料 No.13-4 原子力規格委員会 耐震設計分科会 平成 20 年度活動計画(案)
5. 議事
  - (1) 会議定足数の確認

事務局より, 代理出席者 7 名が紹介され, 規約に基づき久保主査の承認が得られた。また, 代理出席を含む出席委員は 22 名で, 委員総数の 2/3 以上であり, 議案決議の定足数を満たしていることが報告された。
  - (2) 前回議事録 (案) の承認

事務局より, 資料 No.13-1 に基づき, 前回議事録 (案) が読み上げられ, 一部再確認・追記の上で正式議事録とすることが, 全員の挙手により承認された。

    - ・ 再確認箇所 : 5(3)項の「本規定」を「本技術指針」へ変更は良いか。
    - ・ 追記箇所 : 5(5)項に, 次回検討会開催日が変更された旨を追記する。
  - (3) 「JEAG4601 原子力発電所耐震設計技術指針」改定案に関する分科会書面投票結果の紹介

事務局より、資料 No.13-2 に基づき、耐震設計分科会での書面投票結果の紹介が行われた。建物・構築物に係る書面投票意見への対応案を原案作成者及び幹事等が作成し、主査の確認の上 3 月 12 日の耐震設計分科会に提案するとともに、その結果は次回検討会で報告することについて、委員全員の承認が得られた。

(4) 鋼板コンクリート構造に関する技術指針改定案についての審議

阿部委員より、資料 No.13-3-1, 2 に基づき、前回検討会におけるコメント、その後提出されたコメントに対する回答案について説明が行われ審議した。

(主な意見)

- ・ 1.4.1 建物・構築物の耐震設計の基本方針本文の耐震設計審査指針の指針を除くのみとし、構造設計に係る記載の追加については、解説に記載する。
- ・ 1.5.1 材料は、素材に関する内容であるが、(6)のタイバー及びせん断補強材が役割名称であり、違和感がある。素材 / 役割を整理したうえで記載を見直すこと。
- ・ 1.5.2 材料定数(2)の本文は、「特に調査しない場合は」を削除し、「・・・単位体積重量は、24kN・・・とすることができる。」に見直すこと。また表 1.5.2-1 c の注釈にも同様の表現があるので修正するとともに c を 23kN/m<sup>3</sup> とした理由を解説に記載すること。解説の“鋼材料が多い”は表現を見直すこと。
- ・ 2.2.1 構造設計の基本事項(3)SC 構造部材の基本仕様において、鋼板厚の制限値(最大)を 40mm 100mm にするよう提案されているが、使用に際して溶接施工性と脆性破断に関する注意事項を解説に記載しておく必要がある。
- ・ 2.3.2 弾性設計用地震動 Sd 及び静的地震力に対する検討の本文及び解説において、「地盤の降伏支持力度」が、「降伏支持力」や「降伏応力度」など混用されているので、用語を統一すること。
- ・ 2.3.4 機能保持及び波及的影響防止の検討の解説(1)最後のなお書きは意味不明。RC 構造の耐震壁の実験結果の文献の内容を入れて、どの程度保守的に設定したのかがわかるようにする。

これらの意見をもとに、原案作成者と主査及び幹事が資料を修正し、3 月 12 日の耐震設計分科会に SC コード原案として提案するとともに、その結果は次回検討会で報告することについて、委員全員の承認が得られた。

(5) 平成 20 年度活動計画について

幹事より、資料 No.13-4 に基づき、平成 20 年度活動計画(案)の説明が行われた。乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針の改定を中心に取り組むこととし、作業会を立ち上げ、20 年度中の耐震設計分科会への提案を目標とする。作業会への参加希望の有無も含め、意見等があれば、3 月 6 日までに幹事に提出することとした。

(6) その他

次回(第 14 回)検討会開催日程については、別途幹事が委員の都合を伺うこととした。

以上